

1

板橋区かわまちづくり基本計画について

(1) 策定の経緯・目的

○令和3年8月、国のかわまちづくり支援制度に、防災の取組を特徴として板橋区かわまちづくり計画※が登録されたことをきっかけに、令和6年1月、さらなるにぎわいの充実をめざし「板橋区かわまちづくり基本構想」（以下「基本構想」）を発表した。

○基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、区のかわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」（以下「基本計画」）を策定する。

※かわまちづくりの取組に対する支援を受けるため、「かわまちづくり計画」を河川管理者である「荒川下流河川事務所」と共同で作成している。この度、基本構想発表の経緯等を踏まえ、「板橋区かわまちづくり計画」の登録変更を進めている。

【骨子案の構成】

1章
基本計画の基本的事項

計画の背景や制度等、基本的事項について示す

2章
地域概況

地域概況について示す

3章
現状分析・特徴・課題

各種調査、特徴に基づき、課題について示す

4章
かわまちづくりの方向性

かわまちづくりの整備や取組の方向性について示す

5章
かわまちづくりの展開

かわまちづくりのゾーニング計画について示す

6章
かわまちづくりの推進

かわまちづくりの今後の進め方、目標について示す

(2) 基本計画策定に向けたスケジュール

令和7年7月	令和7年8月	令和8年1月	令和8年2月
かわまちづくり協議会に骨子案報告	議会報告	かわまちづくり協議会に原案報告	議会報告

【参考調査】周辺地域住民へのWEB アンケート調査（令和7年3月実施） n=826

【対象】 板橋区民 ＋ 河川敷 3km圏域 住 民	●河川敷を訪れた際の滞在時間…2時間未満 78.8%（うち、1時間未満 54.6%）
	●河川敷の利用頻度…年に1回以上…63.1%（うち、年に数回 27.4%、年に1回 10.7%）
	●利用したい河川敷・周辺の区立施設…第1位：舟渡水辺公園 19.7%（全体1位：都立浮間公園 30.5%） （複数回答可）第2位：草地広場（バーベキュー利用含む）18.8%
	●改善がなされるとよいこと【施設面】…第1位：トイレの充実 59.0% （複数回答可）第2位：休憩所の設置や日よけ等の暑さ対策 43.5% 【娯楽面】…第1位：カフェ・キッチンカー等の飲食機能 46.5% 第2位：バーベキュー機能の充実 21.7%

2 主な課題

○板橋区 の地域概況や各種アンケート調査、サウンディング型市場調査等の結果を踏まえ、以下のとおり主な課題を設定した。

【課題①】

体育施設利用者を中心としたスポーツ利用が多くなっているため、新たな利用者層を獲得するとともに、広大なオープンスペースを活用し、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要がある。

【課題②】

トイレ機能の改善や休憩所・日よけ等設置による暑さ対策など 既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の 自然環境の維持・充実を図っていく必要がある。

【課題③】

新たな利用者獲得や既存機能の充実を図っていくには、行政の取組促進や工夫とともに民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や安定した運営が必要である。

【課題④】

荒川河川敷は、震災時における避難場所や支援物資等の拠点としての活用や、水害対策として高台まちづくり等の取組などが進んでいる一方で、気候変動等による激甚災害が増加していることから、より一層の防災機能の充実を図る必要がある。

【課題⑤】

河川敷までの交通アクセス改善や高島平まちづくりの展開を踏まえるなど、周辺エリアと連携し、課題解決とともに特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要がある。

3 かわまちづくりの方向性

○主な課題解決を図るとともに、基本構想で掲げる「自然体験型アーバンリバーパーク」実現に向けて、かわまちづくりの方向性を以下のとおり示す。

【基本的な考え方】

にぎわい創出と板橋区かわまちづくりの特徴である防災の2つを軸に、荒川河川敷の魅力と機能向上をめざすため、ゾーニング計画に基づき、5つの視点で各種整備や取組を推進する。

【かわまちづくりの5つの視点】

①区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

②既存機能の充実

③公民連携の推進

にぎわいのバージョンアップ

にぎわい創出にあたっては、新たな機能導入に加えて、既存機能の充実を図るとともに、公民連携の視点から新たな価値を創出することで、「にぎわいのバージョンアップ」をめざす。

④防災機能の充実

国との連携が不可欠であること、防災・水防災等の関係性が深いことなどから、国との連携を強化するとともに、さらなる防災機能の充実を図っていく。

⑤まちづくりとの連携

河川空間だけではなく、まち空間との連携も必要であることから、高島平まちづくりなどと連携を図ることで、まち側の課題解決とともに新たな価値の創出に向けて、積極的に取り組む。

【かわまちづくりの方向性】

自然体験型アーバンリバーパーク

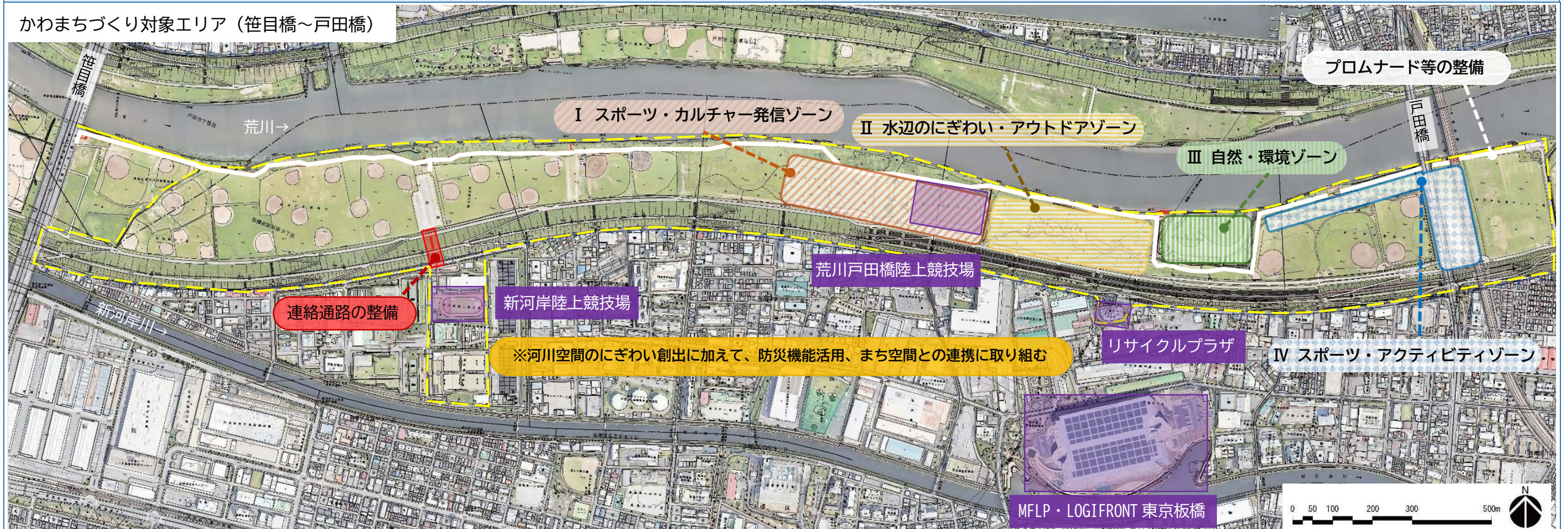
ゾーニング計画

かわまちづくり推進の5つの視点と方向性

バー に ぎ わ い の バ ー ジ ョ ン ア ッ プ の	①区のブランドとなる 充実したコンテンツの創出	○にぎわいの核となる拠点等整備 ○河川敷への新たな利用者誘致
	②既存機能の充実	○既存施設等利用者の利便性向上 ○みどり・水辺の利活用促進
	③公民連携の推進	○新たな民間活力の導入 ○関係指定管理者との連携促進 及び機能向上
④防災機能の充実 ○国との連携による防災活用の推進 ○高台まちづくりによる水防災の取組促進		⑤まちづくりとの連携 ○まちをつなぐ交通アクセスの機能充実 ○高島平まちづくりとの連携・新たな価値創出

【ゾーニング計画】

かわまちづくり対象エリア（笹目橋～戸田橋）



【ゾーニングの方向性】

○各ゾーンについて、「めざすべきゾーニング像（◎）」と「整備の方向性（☆）」2つの観点から、以下のとおり示す。

全体エリア

◎各ゾーンの特徴を活かした取組の展開やそれらのゾーンをつなぐことで、連鎖的な水辺空間を創出する。

☆プロムナードや親水護岸を整備し、エリア全体の回遊性向上、水際・水面活用を推進する。

I スポーツ・カルチャー発信ゾーン

◎スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催し、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざす。

☆ラグビー場の整備や広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図る。

II 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

◎水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざす。

☆親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、リサイクルプラザや自然地の利活用を見据え、かわまちづくりの拠点とする。

III 自然・環境ゾーン

◎豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を守り、みどりあふれる場をめざす。

☆生物生態園のワンド等の地形を活かし、自然に触れ合え学べる機会を創出することで、みどりの拠点として活用する。

IV スポーツ・アクティビティゾーン

◎新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々でにぎわう場をめざす。

☆マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場周辺の充実を図る。

【公民連携の方向性】

サウンディング調査の主な意見

- 民間事業者による整備は、多額の経費を初期投資に要するため収益還元は難しい。
- にぎわいを創出しやすい箇所から集中して集客を行うことが必要である。
- 先進的な事業となる可能性も高く、今後の事業条件や集客環境の形成に応じ、条件次第では参画可能である。
- 区内の関連する指定管理施設と一体で管理することが効率的である。

意見から見受けられる課題

- 区の初期投資（整備）が一定必要
- 集客に向けたデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図ることが必要
- 関連する指定管理者との連携・協議等が必要

取組の方向性

民間事業者が参入可能な条件整理や事業手法を検討・工夫し、事業試行の準備期間を設けながら、整備や取組につなげる